

# 長野県革新懇ニュース

2014年4月号  
(発行日4月10日)  
年会費5000円(送料込)  
振替 0510-3-15971

180

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会  
(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕  
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内  
TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: yamaguti@trust.ocn.ne.jp

## 平和憲法を守り生かす

### 県民大集会

日時 4月29日(火)  
13:30~16:00  
会場 ホクト文化ホール



## 父、小宮山量平の遺志を引き継いで

荒井きぬ枝さん

(エディターズミュージアム代表)

1947年、小宮山量平の長女として上田市に生まれる。成城大学文芸学部卒業。結婚して帰郷し、母の家業の鰻屋を継ぐ一方で、店の一角に「小宮山量平の本棚」を開設。そこを拠点に講演会“いのちを語るシリーズ”を10年余にわたって主宰。2005年、エディターズミュージアム「小宮山量平の編集室」を開設。

■13日がご命日だと思いましたが、生前の思い出をお聞かせください。

95歳で亡くなってから、丸2年になります。私は父が31歳のときの子どもで、60年以上ずっと一緒にいたことになりました。私は父の仕事が大好きでしたし、ひとりの編集者として大変尊敬もしていました。理論社を創業したのが私の誕生と同年だったので、子どもの本については私がいちばん最初の読者でした。父は家族を上田において、単身赴任で東京にいらしていたのですが、夜行列車で帰省した翌朝には、私の枕元にいつも新しい本が置かれていて、楽しみにしていました。で

も、良い本だから売れるというわけではないということも子ども心に理解していました。よく隣部屋で母にもうダメかもしれないと話していたことを覚えています。経営上の厳しさはありましたが、父は仕事に誇りを持っていました。父の編集者としての仕事は単なる机上のものではなく、その時代、時代を編集することだったと私は思っています。時代の求めに答える著者の思いを世の中に伝え、その中で、人と人とを紡いでいく、そういう編集者であつたと思っています。父は生涯、今出すべき本は何かを追求した人でした。理論社創業時の最初の仕事は「季刊理論」の発刊でした。父はその1冊目に戦後の日本人の心の中に自立の精神が芽生えることを願い、その思いを込めた文章を書いたのですが、ただちにGHQが削除してしまいました。GHQは占領政策をすすめるために、物言わぬ国民をつくらうとしていたので、父の主張は受け入れがたかったわけですね。しかし、父はその後一貫して日本再生のために必要なことは何かを問い続けてきましたから、いつか自らの思いを託した本を出版したいと考えていました。それが「千曲川」に結実することになりました。削除された文章については、中馬清福さんが大変興味をもっておられたのですが、お目に

かかる前日、偶然にも父の遺品の中から出てきたものですから、父が「読んで下さい」と言って差し出してくれたに違いないとお話しました。

■灰谷健次郎さん始め多くの文学者を世に送り出してこられました。その点についてはいかがですか？

父はいつも口癖のように、自分が育てたとか、世の中に送り出したわけではなく、自分自身で育てた。自分のことを「めぐり合い論者」だとも言っていました。めぐり合いの中で、出るときが世に出たというのだと思います。そこに年表があります。父の年表は「めぐり合い年表」となっています。たくさんめぐり合いがあつて、たくさん本が生まれた。その中の一人が灰谷健次郎さんだつたということだと思います。

■中馬さんが「考」で小宮山さんの追悼文を書かれています。ご関係は？

中馬さんとは親交が深く、骨を拾っていたとき、父の遺書には、人に迷惑をかけてはいけない、延命治療はしない、人からいただくものをしてはいけないとありました。密やかに送らせてもらいました。それにもかかわらず中

馬さんは駆けつけて下さいました。父が90歳代、桜井間甘精堂の桜井佐七さんが80歳代、中馬さんが70歳代ということ、ほぼ10歳ずつ年齢が違っているの、3人で仲間をつくらうなという話もしていました。中馬さんは、父にとつても長野県にとつても本当に大きな存在だつたと思います。

■「千曲川」の続編のお話はあつたのでしょうか？

横浜の読者の方から、続編はいつ出すのかと何度も催促をいただきましたし、同様の声はたくさん寄せられていました。ただ、続編となると戦後になるわけ、どうまとめるべきかについては構想中だったのではないでしょうか。とは言え、原稿用紙2枚は書きはじめていましたし、副題は「希望」に決まっています。どうして「希望」を副題にしようとしたのか、不思議に思われるかもしれませんが、今の時代、絶望の連続ですから……。しかし、父はいつの時代も前向きで楽天主義者でしたし、多くの方々の出会いの中で種は蒔いた、その種がかならず育っていくという手応えが、父にとつての希望だったのだと思います。遺族として、父が亡くなった悲しみや喪失感はもちろんあるのですが、身内の感情を離れて、悔いのない送りかた

## コラム

「土の中は開けてみないと分からない部分がある」。2月県議会での北村建設部長の答弁です。浅川

ダムに関して新たな安全対策など増額が必要になったことに関して藤岡県議が質した指摘に答えたものです。▼もともと浅川ダム建設地をめぐっては、地質の悪さや、地すべりの危険などがあることから、私たちは「危険なダム」であると指摘し建設中止を求めてきました。さらに、ダム工事が始まると断層がダム堤体を横切つて姿を表しました。この段階でも県は、「ダム建設に支障はない」を繰り返してきました。掘つてみたら危険性が浮き彫りにされたのです。▼原発をめぐる活断層も同様です。調査を尽くし、安全性は確保されたとしてきた場所、改めて危険性をめぐり再調査が必要になっているのです。ダムや原発など壊れたら重大な被害が予想される構造物を作るにあたって、「開けてみなければ分からない」などは許されないとです。▼そもそも自然に対して人間の知恵の及ぶ範囲は限定されます。地下の様子など100%理解することは不可能なことです。開発や建設を至上命題とし、つじつまあわせの調査で安全性が確保されたかのようには、作ることを受ければ手痛い仕打ちを受けることになるのではないのでしょうか。【花】